

聖家族

2010.12.26

カトリック高円寺教会

マタイ 2:13～15、19～23

エジプトでは、聖家族の日を、カイロ市内にある、1つの木のもとに集まって祝うそうです。その木は、聖母マリアが疲れた時に休んだ木だという言い伝えがあります。また、アラブの人たちは初めて来た人たちを持ってなす、ホスピタリティの精神にあふれていたの、聖家族も移り住んだ頃は、エジプトの人たちのお世話になっていたのだから、自分たちも住み慣れない人たちに奉仕しようという決心を新たにしているそうです。それでは、聖家族がエジプトに移り住んだいきさつとその後の生活はどうだったのでしょうか？

今日の朗読では、途中が省かれましたが、「占星術先生の学者にだまされたと知ったヘロデは、ベツレヘム周辺の2歳以下の男の子を一人残らず殺させました。」とあります。このヘロデは、どんな人物だったかという、とても、有能な政治家でした。王として支配しながら、ローマ帝国とも上手い関係を結んでいました。政治、経済、軍事すべての面で権力を握っていました。だから、「王が生まれた」と聞いて強いショックを受け動揺しました。彼は、有能でしたが、自分を脅かす者には残酷でした。自分の奥さん、奥さんの兄、奥さんのお母さん、おじさん二人、自分の息子も3人殺しています。だから、「王が生まれた」と占星術の学者から聞いたときに、すぐに殺すことに迷いはありませんでした。

夢で天使から逃げなさい、と言われたヨセフに、もし迷いがあつたら、イエスはつかまって、殺されていたでしょう。きわどい危機を逃れました。

エジプトに逃げた後、聖家族はどのような生活をしたのでしょうか？ 聖家族は、今で言えば、命からがら逃げてきた政治難民でした。着の身着のまま、何の当てもなくただ逃げてきただけでした。いつの時代でも、難民として生活することは大変でした。生まれたばかりのイエスを抱いたマリアは、動きが取りにくかったのでしょうか。ヨセフは、言葉も、文化も違う中で、どうやって仕事を見つけたりしていたのでしょうか？ 今のように、社会保障制度も、失業保険もない、頼れる親族や友人もない中で、どれほど苦労したでしょう。涙なしには聞けない、辛く貧しい生活だったに違いありません。それでも、ヨセフとマリアは、ユダヤ教の伝統に基づき、祈りの生活を大事にしていました。辛くても、神と共にいました。

イエスは、両親の苦労を見て育ちました。親のことばと周りのことばが違うことにも気づいたでしょう。自分の家が他と比べて貧しいことにも気づいたでしょう。貧しい生活の辛さを肌で知っていました。だからこそ、宣教活動の間、貧しい人、弱い人に特別の愛情を示しました。物質的な貧しさに引け目を感じることなく、むしろ、貧しい人とつながって生きることを学んでいきました。ヨセフとマリアから受けた愛情に支えられてイエスは育ちました。このような家族を、今日私たちは聖家族としてお祝いしています。

では、現代の聖家族とはどのようなものなのでしょうか？ 聖家族は貧しい中にも信仰を生きた家族と言えますが、今、同じような生活ができるのでしょうか？ これは、かなり難しいように思います。私自身、サラリーマンを12年間していましたが、忙しいと収入はあっても家族と過ごす時間が取れません。もし、結婚していたとしたら、母子家庭のよう

な状態になっていたでしょう。家族そろって祈る時間も取れたとは思いません。恐らく、お嫁さんに「あなたは、会社でばっかりいい顔して、家では何もしてくれない。それでも、あなたはクリスチャンなの？」と言われ続けていたでしょう。また、私も、「私がどれだけ会社で、苦勞してると思ってるんだ！」とイライラを家族にぶつけていたかもしれません。聖家族の理想を語れても、実際には相当難しいだろなと感じます。私には、朝早くから家族でミサに与っている皆さんに、尊敬するだけで、何もみなさんに語れません。

それでも、何か語らなければ、と黙想しました。浮かんだシーンは、次のようなものです。もし、皆さんの中で、うちはクリスチャンの家族ですがそれらしいことは何もできてないと思って、聖家族、ヨセフ、マリア、イエスに「うちの家庭はこうなんですけど・・・」と話しかけたら何と返事が返ってくるのでしょうか？ きっとこう言われると思います。「私たちも同じですよ。確かに慣れない生活で苦勞しましたが、あなたのご家族も信仰を生きにくい今の日本で頑張っているんじゃないですか。うちのイエスの代わりに、お子さんを大切に思っているんじゃないですか！ よくやっていますよ。一言申し上げるとすれば、時々休むことが大切です。私も、木の下でよく休みました。いろいろな愚痴や不満を神様に聞いてもらって癒されました。」

信仰を生きる難しさを聖家族はよくご存じです。この1年、家族にいただいた恵みに感謝しながら、新しい一年もクリスチャンとして生きる助けを願いながらこのミサを捧げましょう。

イエズス会司祭 柴田 潔